

【令和3年第1回定例会 まちづくり委員会委員長報告資料】

令和3年3月19日 まちづくり委員長 市古 次郎

○「議案第5号 川崎市手数料条例の一部を改正する条例の制定について」

《審査結果》

全会一致原案可決

○「議案第15号 川崎市福祉のまちづくり条例の一部を改正する条例の制定について」

《主な質疑・答弁等》

* 条例改正による既存の公立小学校等への影響について

本市の公立小学校等は、現在、条例によりバリアフリー法の適合義務の対象としており、本条例改正は、政令により適合義務の対象とされたことによる規定を整理するものであるため、影響はないと考えている。

* バリアフリー化を必要とする施設数及び今後の見通しについて

具体的な施設数は把握していないが、今回の改正によって、公共施設における増築、用途変更、大規模修繕等を行う場合が新たに届出の対象となるため、よりバリアフリー化が進むものと考えている。

《審査結果》

全会一致原案可決

○「議案第16号 川崎市都市公園条例の一部を改正する条例の制定について」

《意見》

* 公募設置管理制度（Park-PFI）の手續に当たって、評価の基準及び設置等予定者選定に関する意見聴取を行うための附属機関として川崎市公募対象公園施設設置等予定者選定委員会を設置することについては反対するものではないが、市民の財産である公園については、公的にしっかりと管理する必要があり、施設の収益等によって公園を管理する手法自体については反対する立場であるため、本議案には賛成できない。

《審査結果》

賛成多数原案可決

○「議案第20号 塩浜3丁目地区内土地造成工事請負契約の変更について」

《主な質疑・答弁等》

* 増額変更を踏まえた予算確保の状況について

工事費総額42億9,500万円として予算措置後、工事内容を精査し、36億円で変更契約を結んだ。しかし、改めて最終的な精査をしたところ、堆積物の単位当たりの重量増加が判明したため、42億9,500万円に増額変更を行うものであるが、この金額は、以前に予算措置を行った工事費に収まるものである。

* 当該地の整備を開始した時期について

塩浜3丁目周辺地区全体の土地利用を検討する中で、当該地についても課題解決を図る必要があると判断し、平成29年に整備を開始した。

*** 今後の詳細な地質調査の必要性について**

ボーリング調査により若干の土壌汚染を確認しているが、今回の工事は堆積物を除去して地盤面を造成することを目的としており、その範囲においては地盤面以下に人体へ影響が出るような物質は確認していない。工事完了後に改めて表層の土壌を調査し、土壌汚染の状況を把握したいと考えている。

*** 再度の追加工事の可能性について**

現場の作業の中で全体の把握に努めており、現在のところ敷地内で大きな問題点は出ていない。工事は本議案の議決をいただいた後に最終段階に進むこととなり、今後も慎重に点検していきたいと考えているが、問題なく完了するものと認識している。

*** 工事期間の見直しについて**

アスベストを含むスレート片の混入や、堆積物の重量の増加が確認される中で、期間の見直し等について検討してきたところであるが、環境基準を超過する土壌の状況も踏まえ、長期間管理を必要とするものがないよう、総合的な判断をした結果、今回の工事の中で完結させることとした。

*** 今後の土地利用の方向性について**

当初の計画どおりに当該地を整備することについては、状況を踏まえながら調査し、検討していく必要がある。計画を慎重に進める必要性を庁内に共有したい。

*** 今後の土地管理の考え方について**

当該地は一度土壌汚染が確認されている土地であるため、今後も継続して監視を続け、適切に管理していきたい。

*** 他の用地の適正な管理及び活用について**

当該地以外の用地についても法令に基づいて土壌調査をするなど、必要に応じてしっかりと確認しながら有効活用していきたい。

*** 再発防止のための取組について**

これまでも本件に関しては多くの判断に問題があったと認識しており、重く受け止めている。不法占拠等に対しては対策委員会における対応などを行っており、今後も本件を教訓として、再発防止のための取組をより一層強化していきたい。

《意見》

* 計画が二転三転し事業内容が変わることは、職員の労力を含め効率が悪く、もう少し検討の余地があったと考えられるため、平成29年からの取組について一度精査するなど、この経験を糧にして今後の事業にもいかしてほしい。

《審査結果》

全会一致原案可決

○「議案第27号 市道路線の認定及び廃止について」

《審査結果》

全会一致原案可決

○「議案第53号 令和2年度川崎市墓地整備事業特別会計補正予算」

《審査結果》

全会一致原案可決